

みせ 三瀬

もろぶち 諸淵

ここは
どこなの？
何時代
なんだろう？

わからないけど
…あれ
お遍路さんだ。

大洲藩で用の

塩問屋を営んでいた

麓屋の三代目半兵衛と

二宮敬作の姉である

妻クラは、亡くなった

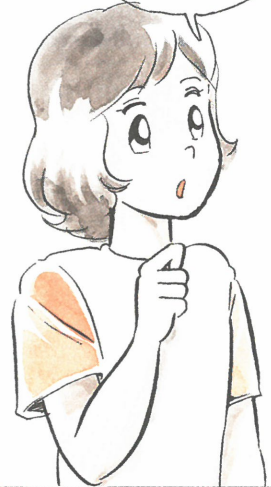
娘のためのお参りと、

子供を授けて欲しい

という願いから、四国八十八カ所、

西国三十三カ所などを

巡り一心にお参りしました。



どうか、私たち
夫婦に子供を授けて
ください。



おんぎゃー

ありがたいことだ。
名は弁次郎と
名つけよう。

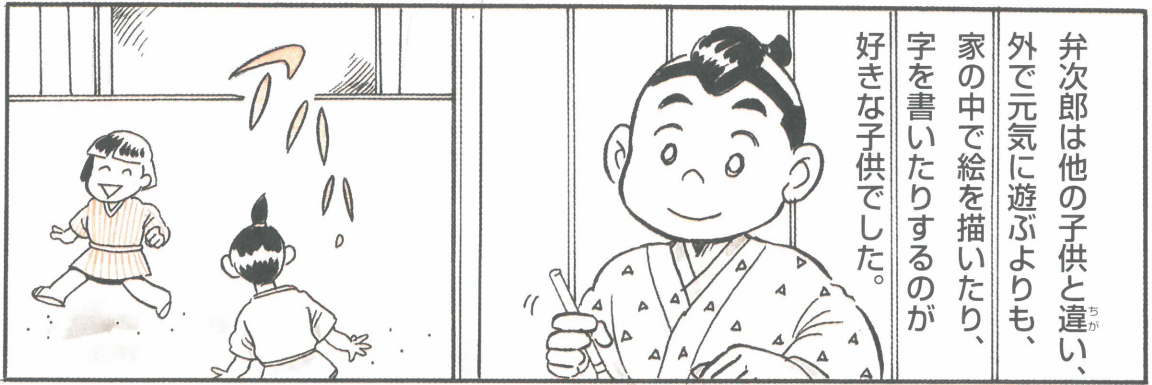


天保十年(一八三九)

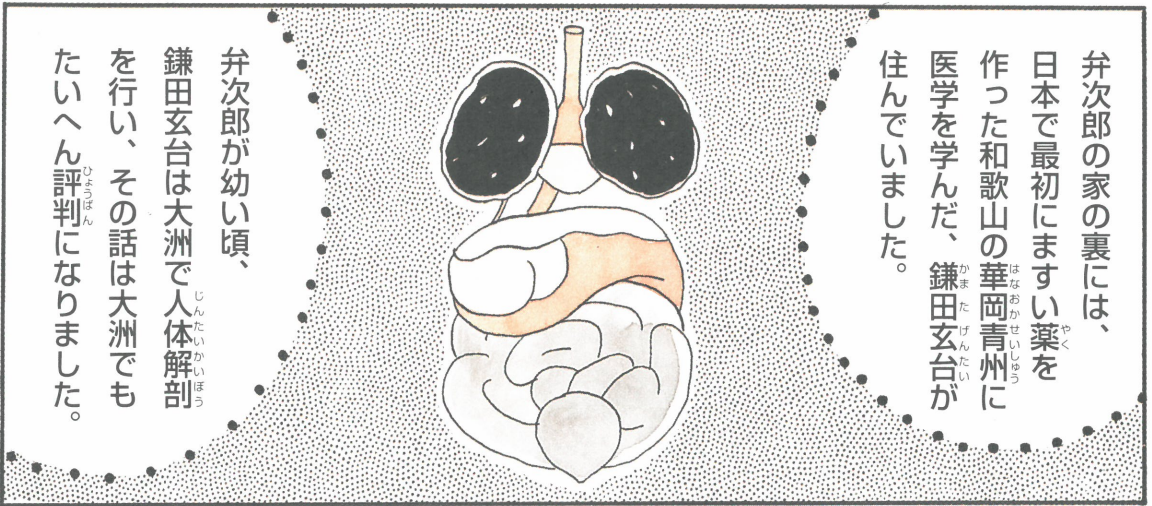
十月一日、

半兵衛夫婦に待望の男の子が生まれました。

その子こそ、後の三瀬諸淵でした。

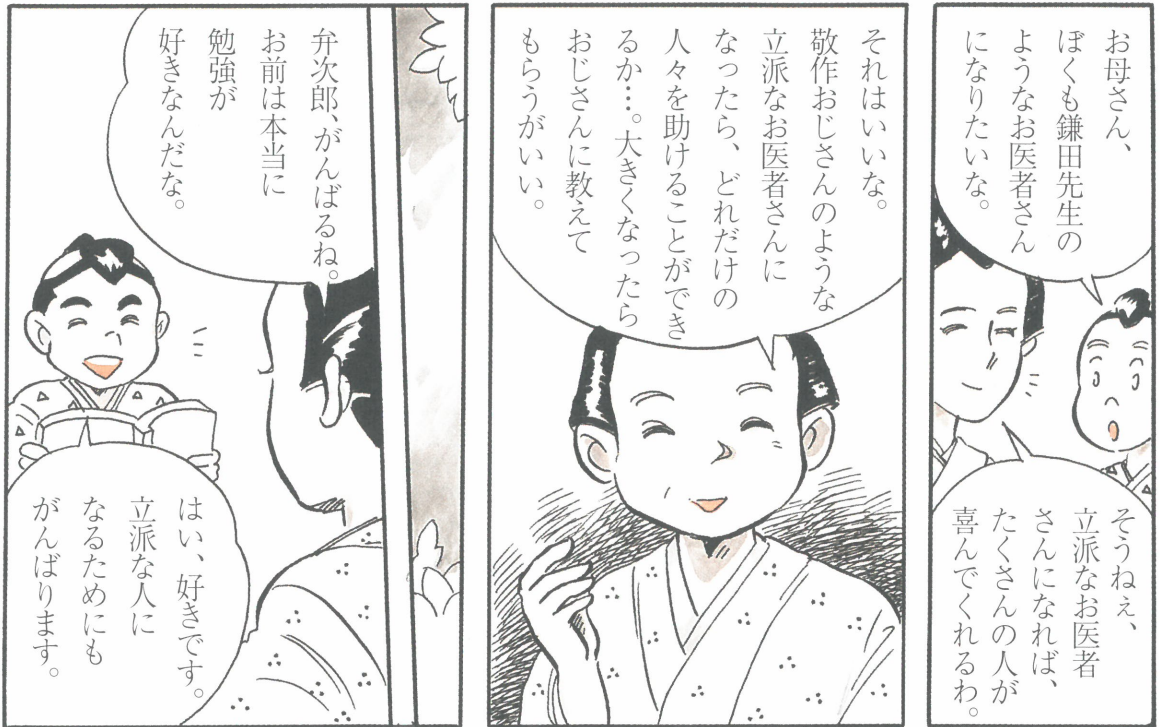


弁次郎は他の子供と違い、外で元気に遊ぶよりも、家の中で絵を描いたり、字を書いたりするのが好きな子供でした。



弁次郎の家の裏には、日本で最初にますい薬を作った和歌山の華岡青洲に医学を学んだ、鎌田玄台が住んでいました。

弁次郎が幼い頃、鎌田玄台は大洲で人体解剖を行い、その話は大洲でもたいへん評判になりました。



お母さん、ほくも鎌田先生のようなお医者さんになりたいな。

そうねえ、立派なお医者さんになれば、たくさんの方が喜んでくれるわ。

それはいいな。敬作おじさんのような立派なお医者さんになったら、どれだけの人々を助けることができるか。大きくなったらおじさんに教えてもらうがいい。

弁次郎、がんばるね。お前は本当に勉強が好きなんだな。

はい、好きです。立派な人になるためにもがんばります。

お母さん、
死なないでー。

嘉永三年（一八四九）四月、
母クワビクなる。

だんな様、
だんな様
ウウ、ウウ

母が亡くなった悲しみが消えるひまもなく、
五月には父半兵衛が亡くなりました。

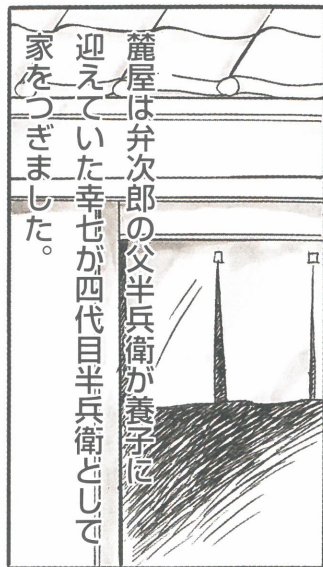
大切な人の
命を助ける
立派な
医者になろう。

そのためにも
もつと学問を
しなくては。

私たち
ぐらいの年に
両親を亡くす
なんて…

弁次郎は
しっかりしてるね。
ゆうすけくんも
しっかりしないと。

母さんみたいな
こと言うなよ。



簾屋は弁次郎の父半兵衛が養子に迎えていた幸せが四代目半兵衛として家をつぎました。



いらっしやいませ。
おいくらほど
ご入りよう
でしょう。

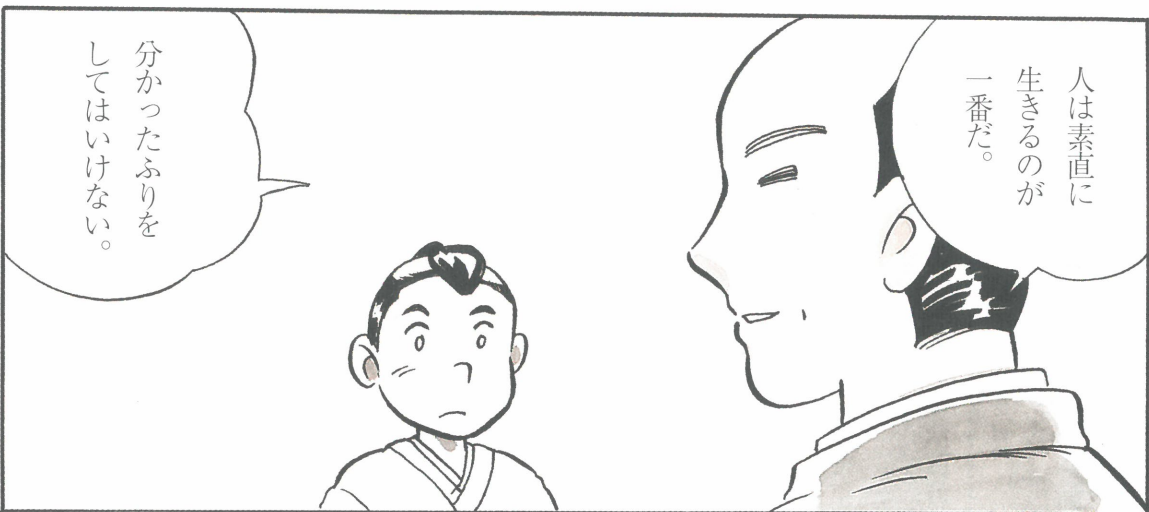
四代目半兵衛さんも
よく働くねえ。だいぶ
暑くなってきたから
体に気をつけてよ。

そして弁次郎を自分の
子供として育てました。



弁次郎は大洲で
大変信望のあつい
常盤井厳戈先生が
開いていた古学堂で
多くの教えを
受けました。

厳戈も弁次郎の才能と
努力に感心して熱心に
教えてくれました。



人は素直に
生きるのが
一番だ。

分かったふりを
してはいけない。

分からないことは
分かるまで
勉強しなさい。

そして、勉強で身に
つけたことは実行する
ことが大切だよ。素直な心を
忘れずに勉強しなさい。

わかりました。
先生のおっしゃるよう、
素直な気持ちをもって
勉強して参ります。

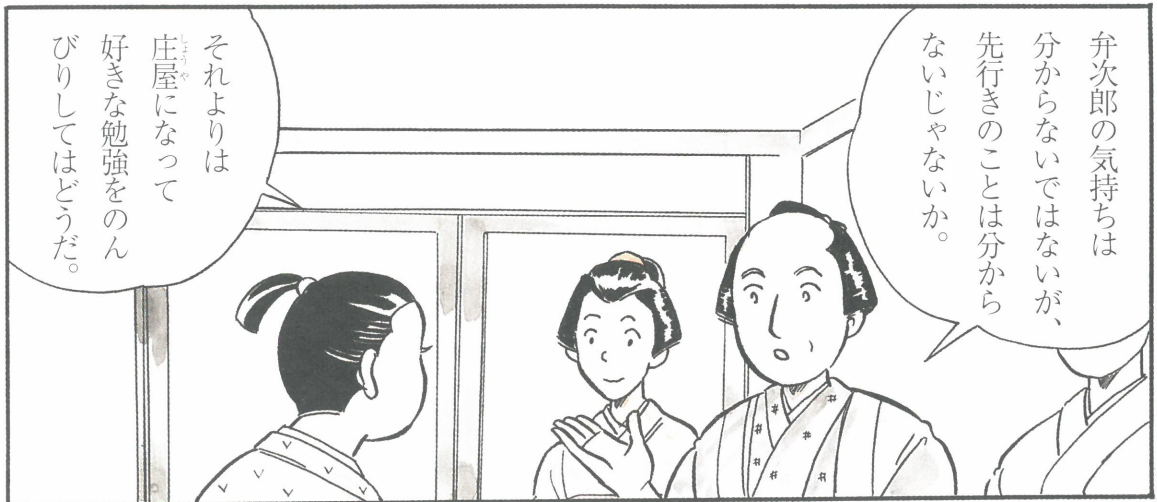


私は大きくなったら
鎌田玄台先生や
敬作おじさんのような
お医者さんになりたい
と思ってきました。

どうかこれから
勉強させてください。
お願いします。

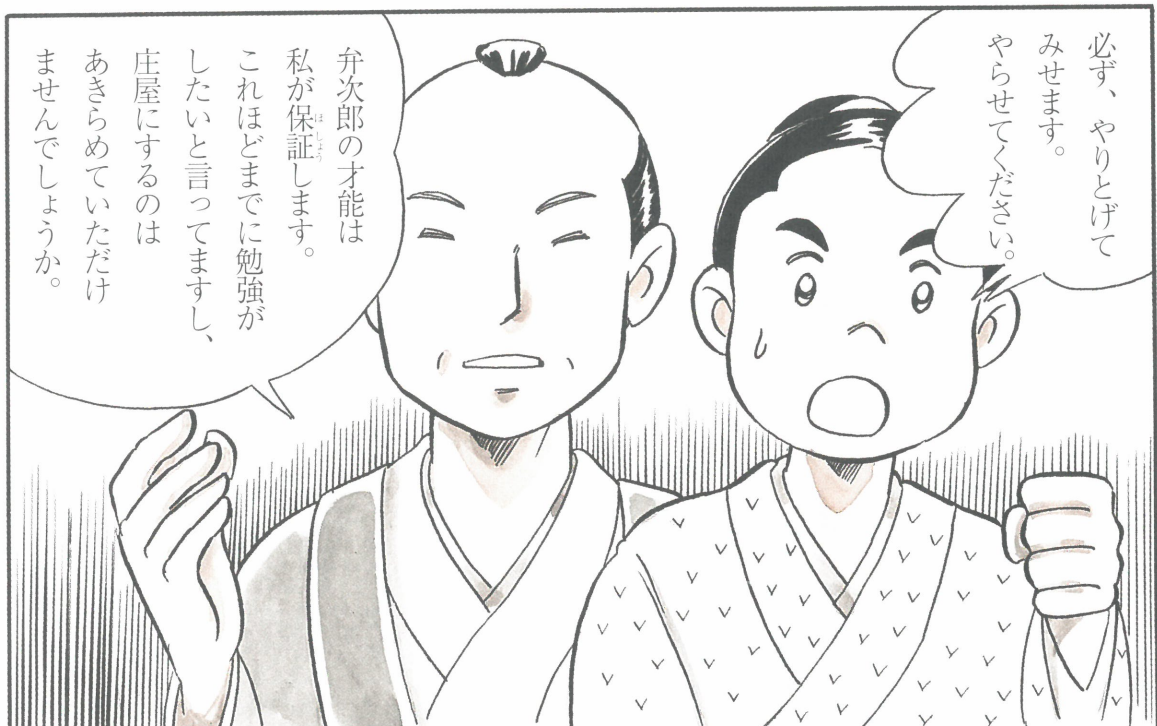


弁次郎が十五歳の時、
弁次郎の将来についての
家族会議が行われました。



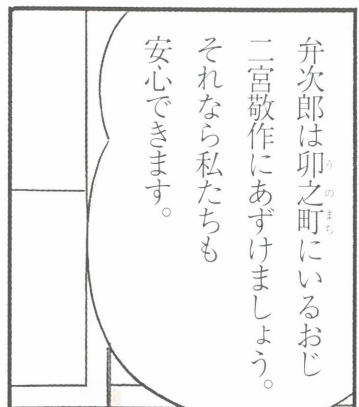
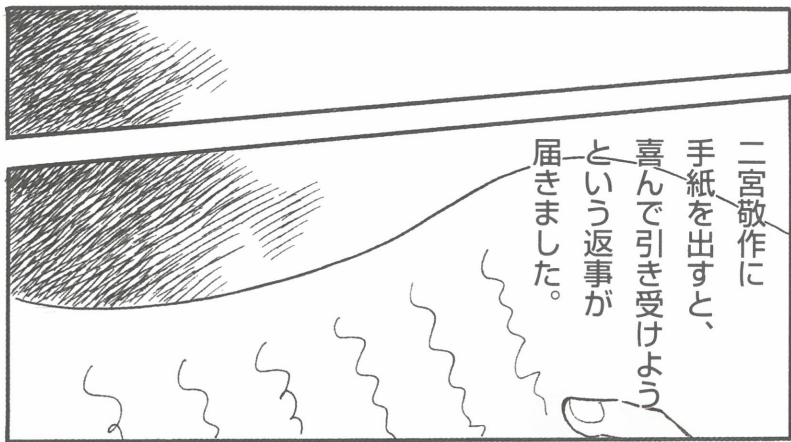
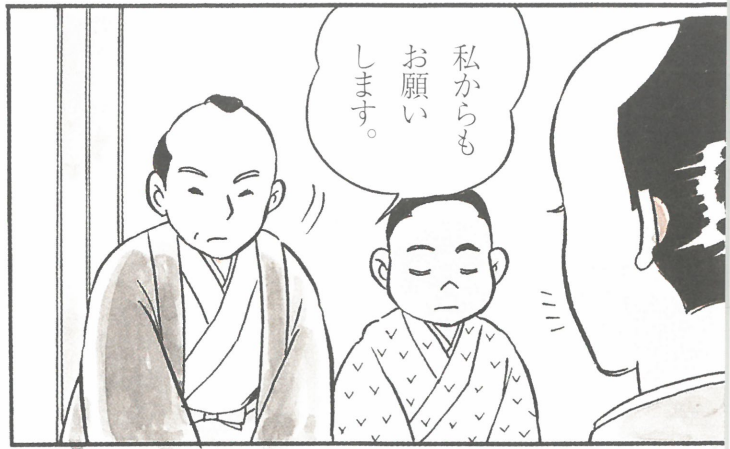
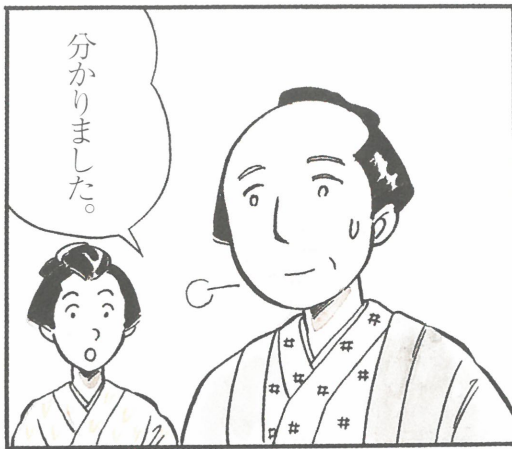
弁次郎の気持ちは
分らないではないが、
先行きのことは分から
ないじゃないか。

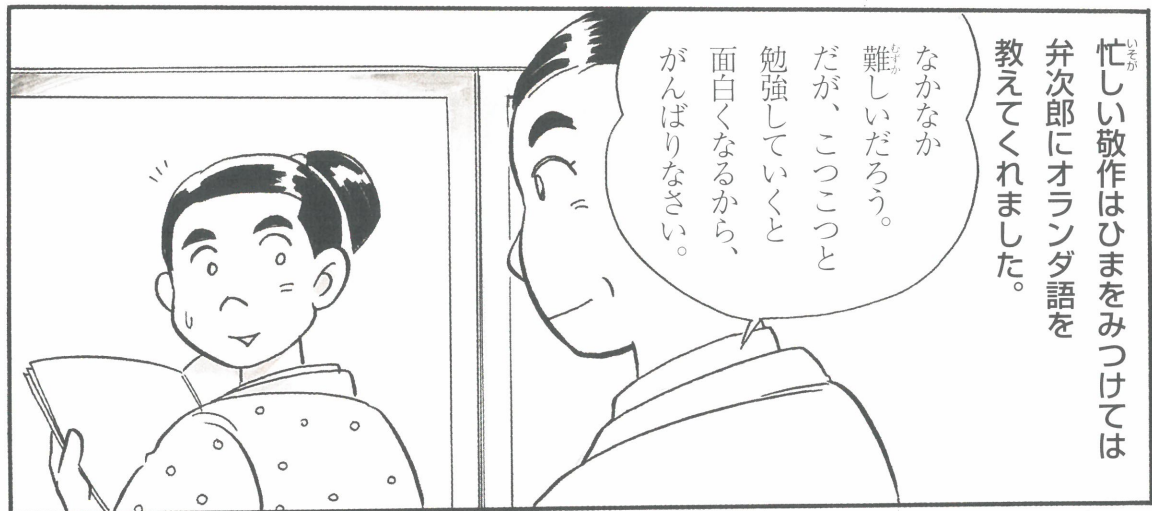
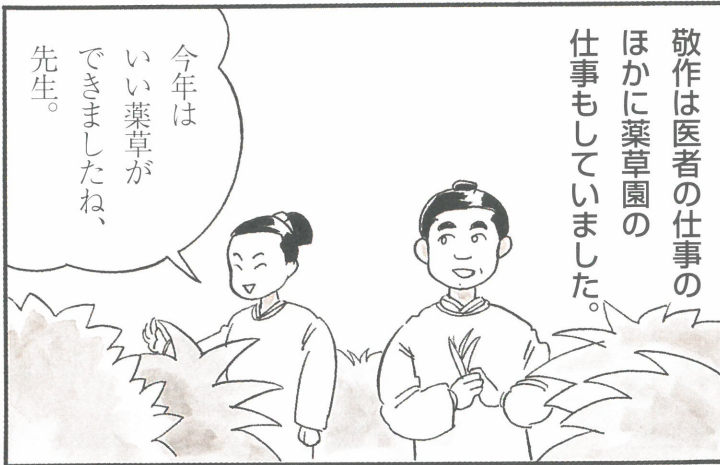
それよりは
庄屋になって
好きな勉強をのん
びりしてはどうだ。



必ず、やりとげて
みせます。
やらせてください。

弁次郎の才能は
私が保証します。
これほどまでに勉強が
したいと言ってますし、
庄屋にするのは
あきらめていただけ
ませんでしょうか。





安政三年
(一八五二)

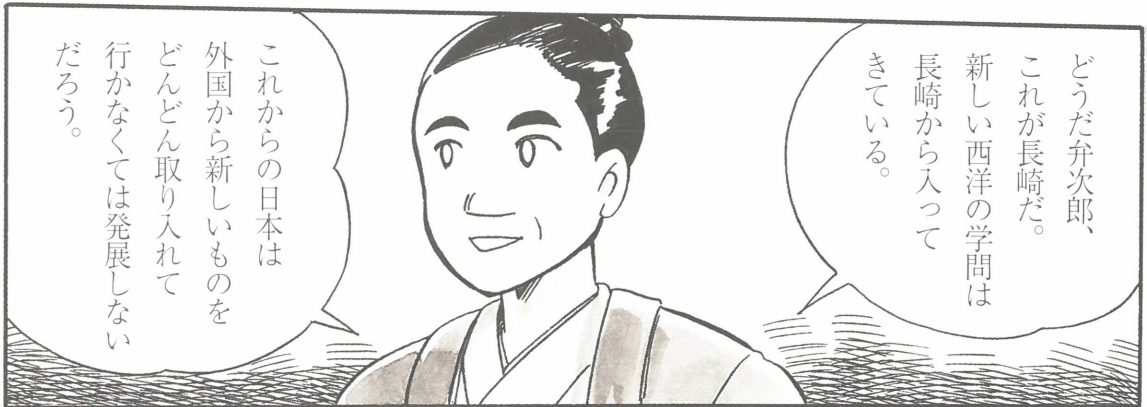


敬作は弁次郎と
シーボルトの娘
楠本イネを連れて
長崎へ行きました。



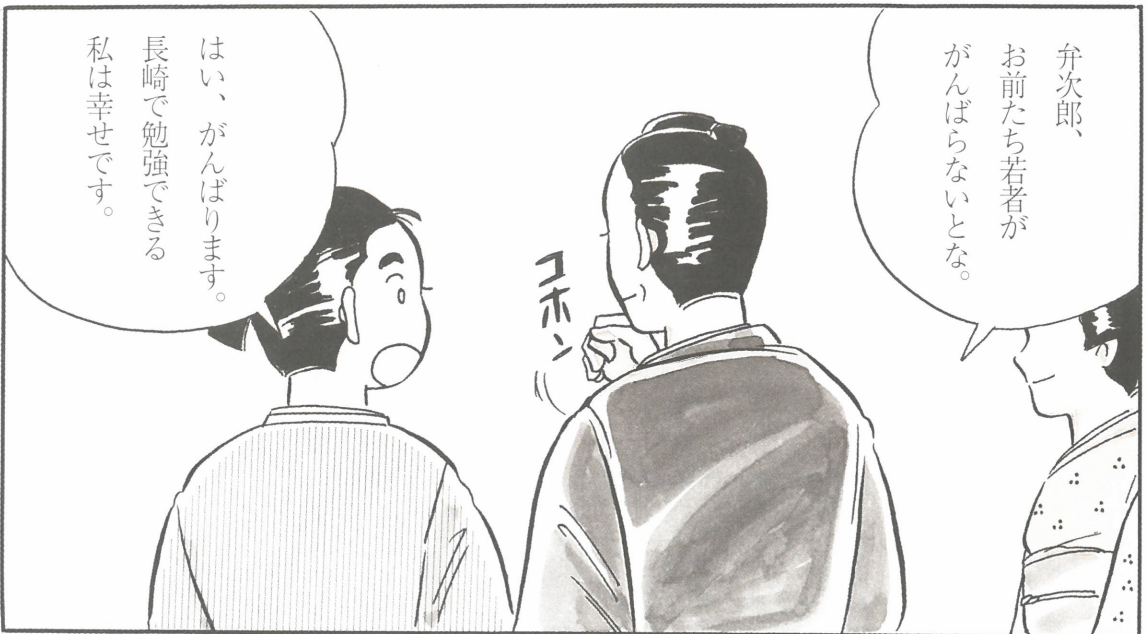
どうだ弁次郎、
これが長崎だ。
新しい西洋の学問は
長崎から入って
きている。

これからの日本は
外国から新しいものを
どんどん取り入れて
行かなくては発展しない
だろう。



弁次郎、
お前たち若者が
がんばらないとな。

はい、がんばります。
長崎で勉強できる
私は幸せです。



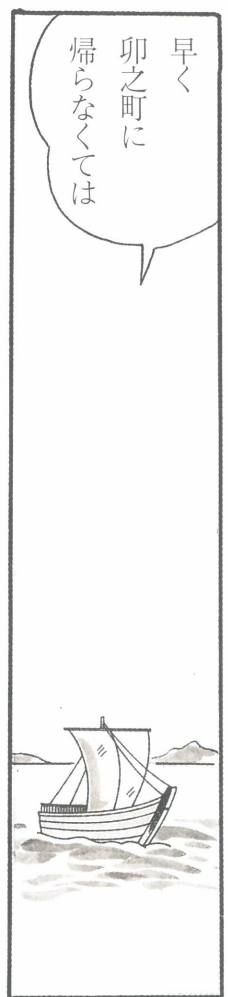
安政五年（一八五八）、
二十歳になった弁次郎は
名前を周三と改めました。



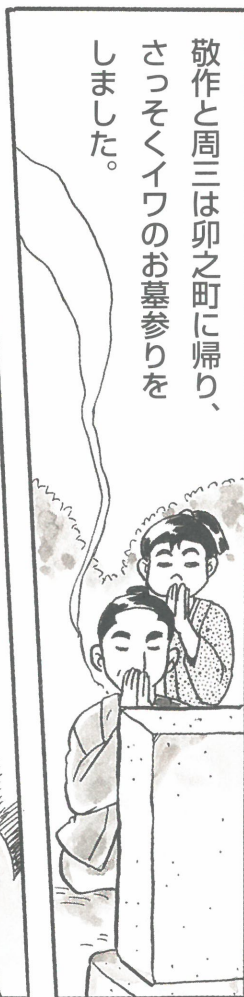
なんという
ことだろう。妻の
イワが亡くなって
しまった。



早く
卯之町に
帰らなくては



敬作と周三は卯之町に帰り、
さっそくイワのお墓参りを
しました。

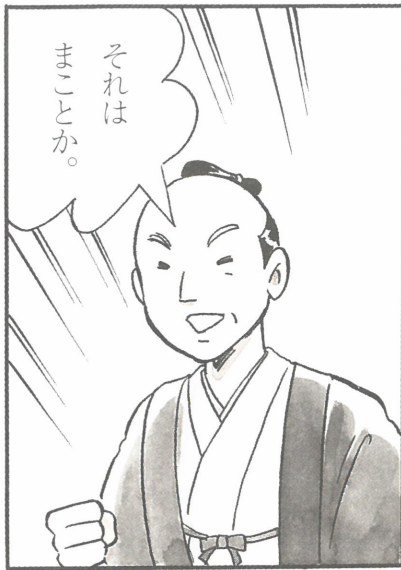


大洲、古学堂

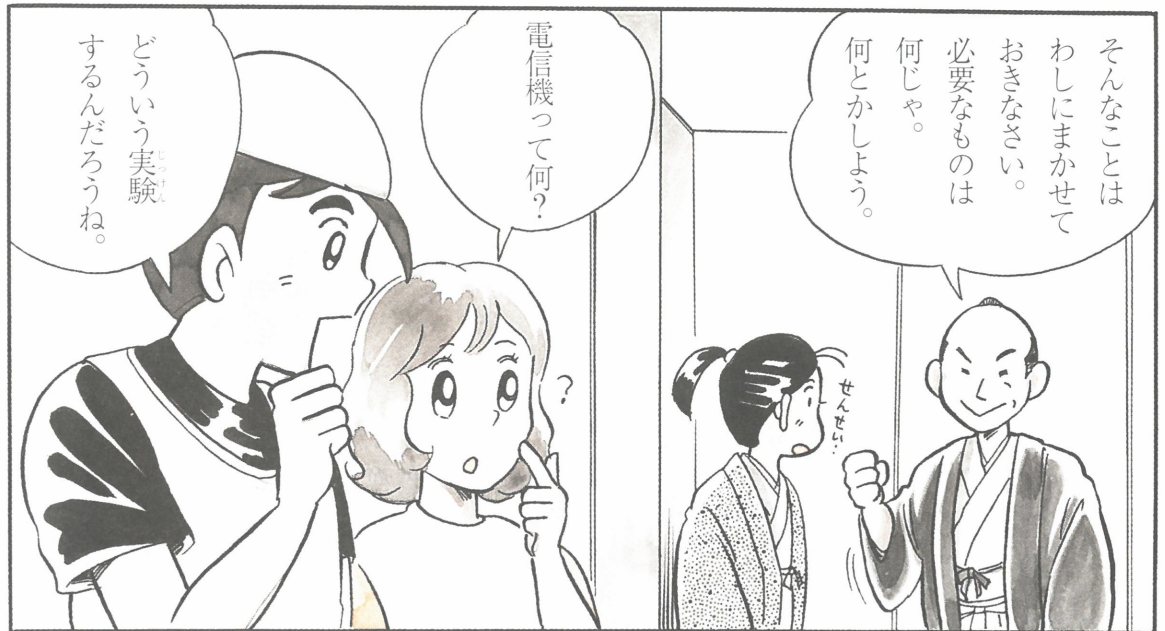
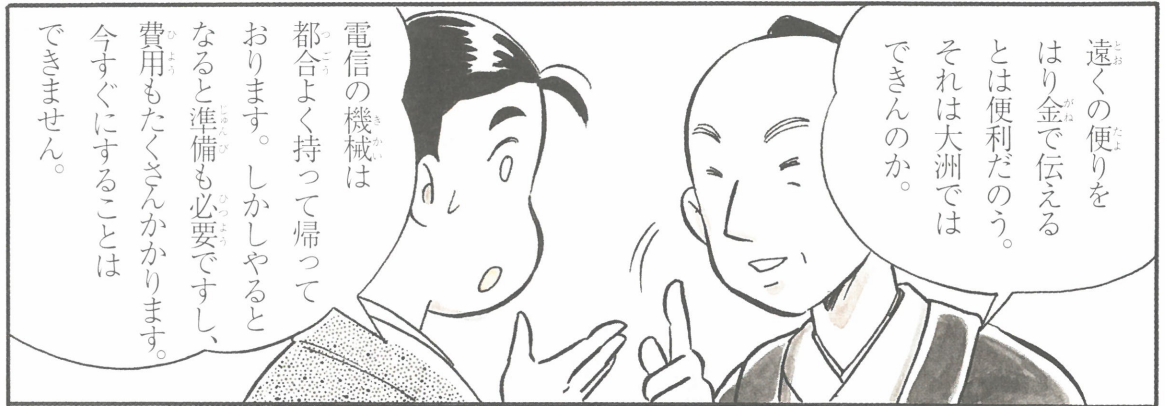
やあ、弁次郎
元気だったか。
三年見ないうちに
大人になったような
気がするわい。
長崎ではどのような
ことを学んで
きたのじゃ。

先生、実は
私の名は周三に
変わりました。





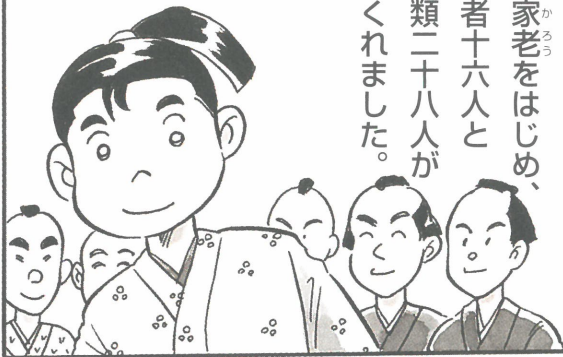
周三は敵戈に電信機の話をしました。



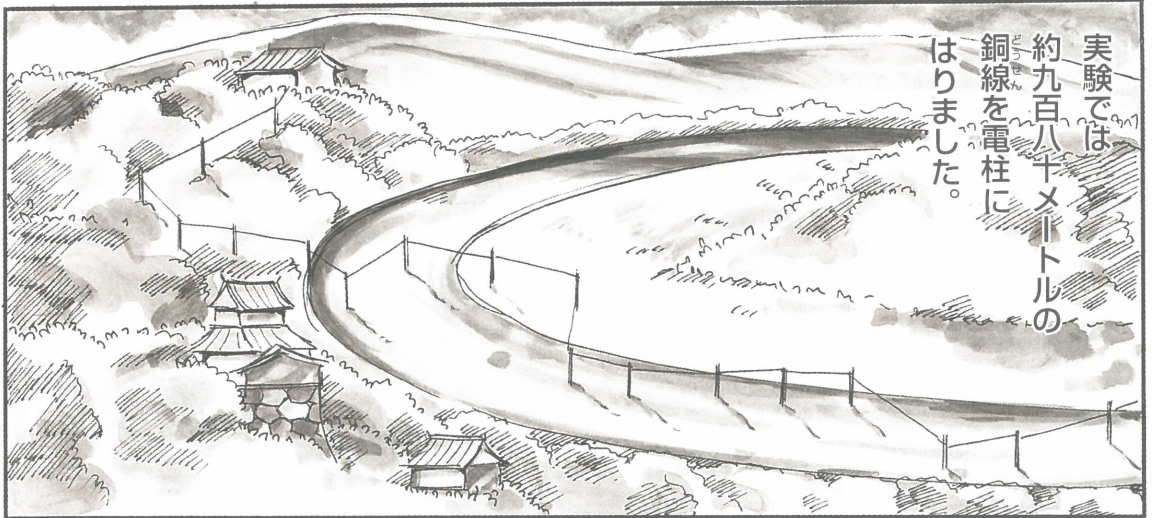
さっそく徹吉は友人の末光と相談して、実験の場所を古学堂から末光の別荘がある彌六谷の間に決めました。



大洲藩の家老をはじめ、町の有力者十六人と籠屋の親類二十八人が応援してくれました。



実験では約九百八千メートルの銅線を電柱にはりました。



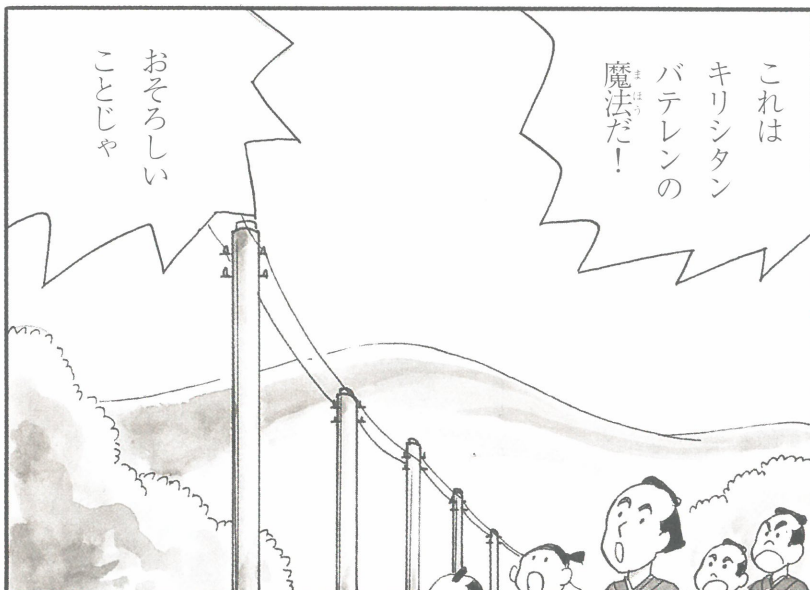
電信実験の日には

話を聞いた近くに住む人たちが見物に集まりました。

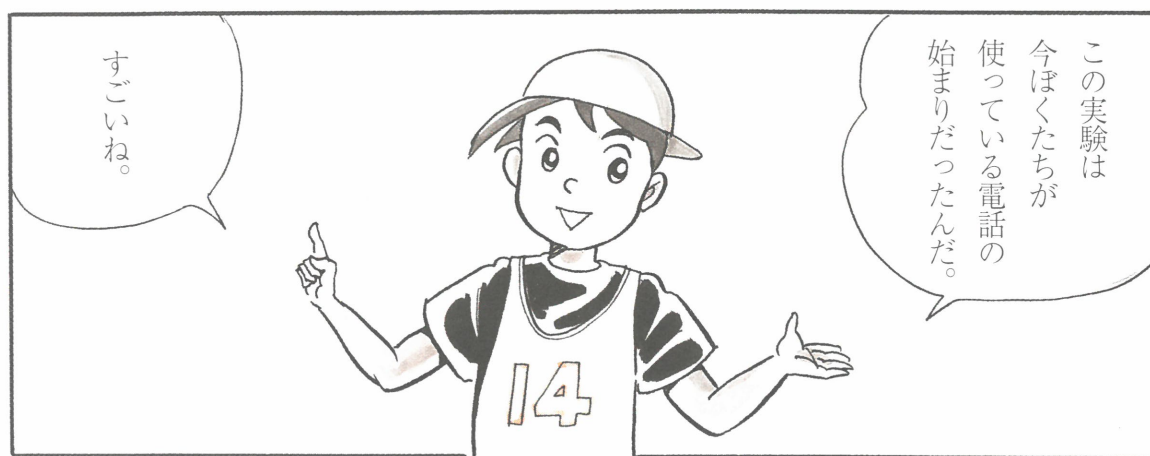
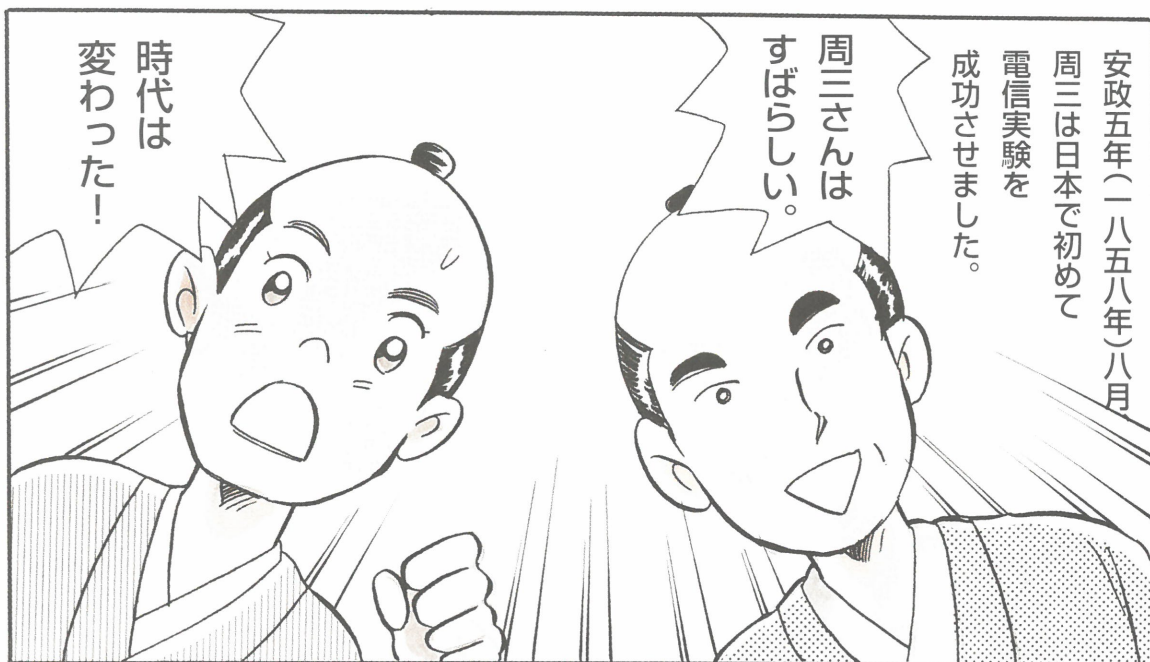
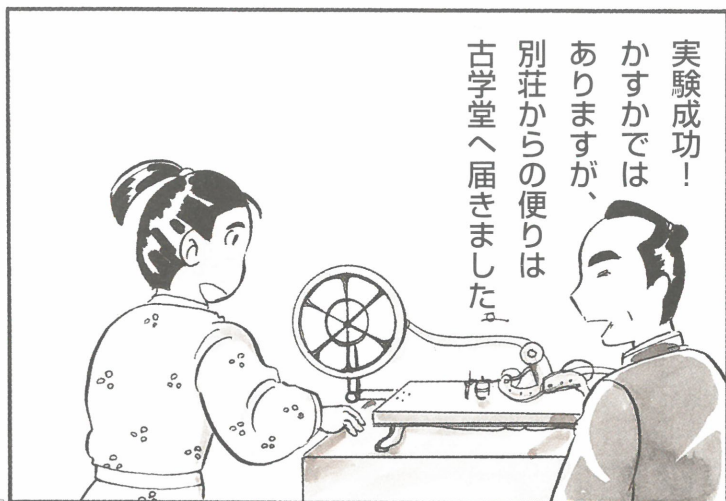


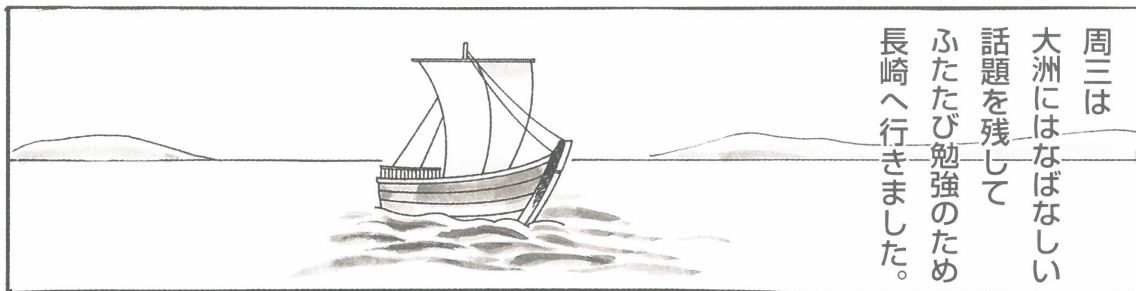
これは
キリシタン
バレンの
魔法だ！

おそろしい
ことじゃ



ステイオン





周三は
大洲にはなばなしい
話題を残して
ふたたび勉強のため
長崎へ行きました。



ケイサク、
元気だった
かい。

再会できて
うれしいです。



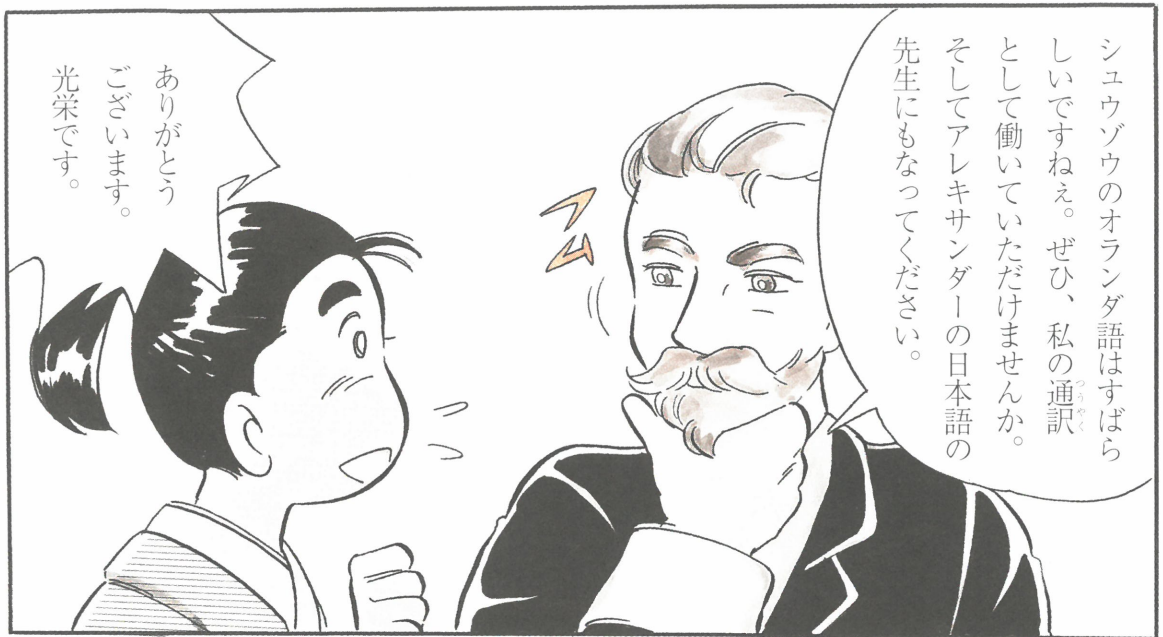
安政六年（一八五九）七月、
シーボルトは息子のアレキサンダーを
連れて三十年ぶりに来日しました。



ペラペラペラ
ペラペラ
ペラペラ
～

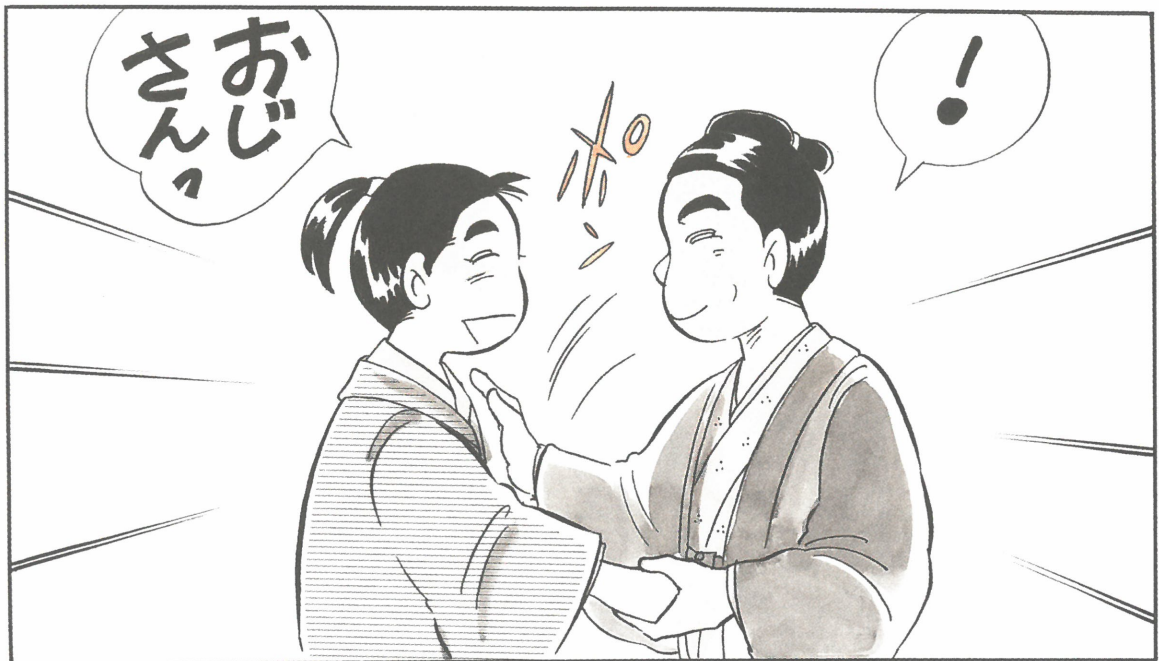


シーボルト先生、
お願いがあります。
ぜひ私のおい周三を
弟子にしていただけ
ませんか。



シユウゾウのオランダ語はすばらしいですねえ。ぜひ、私の通訳として働いていただけませんか。そしてアレキサンダーの日本語の先生にもなってください。

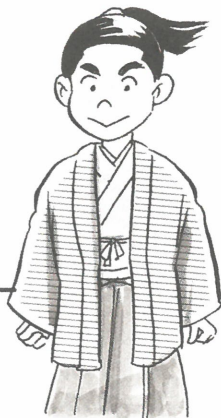
ありがとうございます。
ごぞいます。
光栄です。

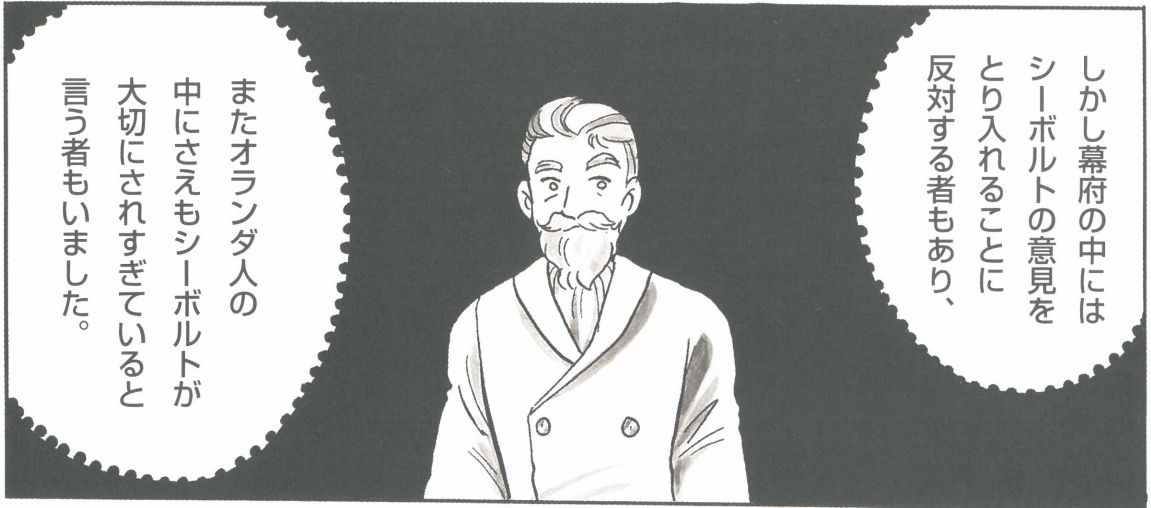
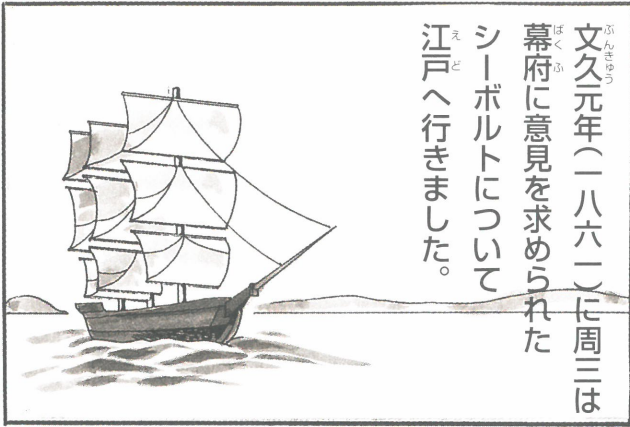


おんじさん

!

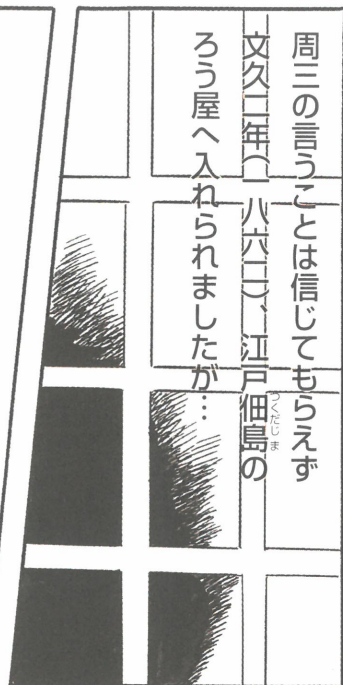
周三は
シーボルトの最後の
弟子として
シーボルトに
仕えること
になりました。







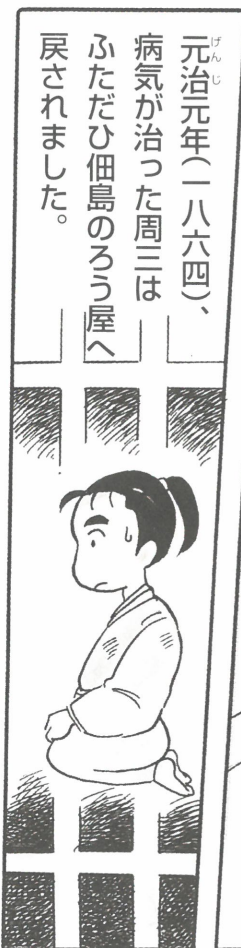
一カ月後、ろう屋での
ひどい生活のため病気になる、
大洲藩の江戸やしきに戻され
病気を治すことになりました。



周三の言うことは信じてもらえず
文久二年（一八六二）、江戸佃島の
ろう屋へ入れられましたか…



慶応元年（一八六五）八月にやっと
罪をゆるされ、大洲へ帰ることが
できました。



元治元年（一八六四）、
病気が治った周三は
ふただひ佃島のろう屋へ
戻されました。



少し体の調子の
いい日は
外国語と医学の
勉強をしました。

それが
周三の
生きがい
でした。

慶応二年

一八六六(三月)

宇和島天赦園

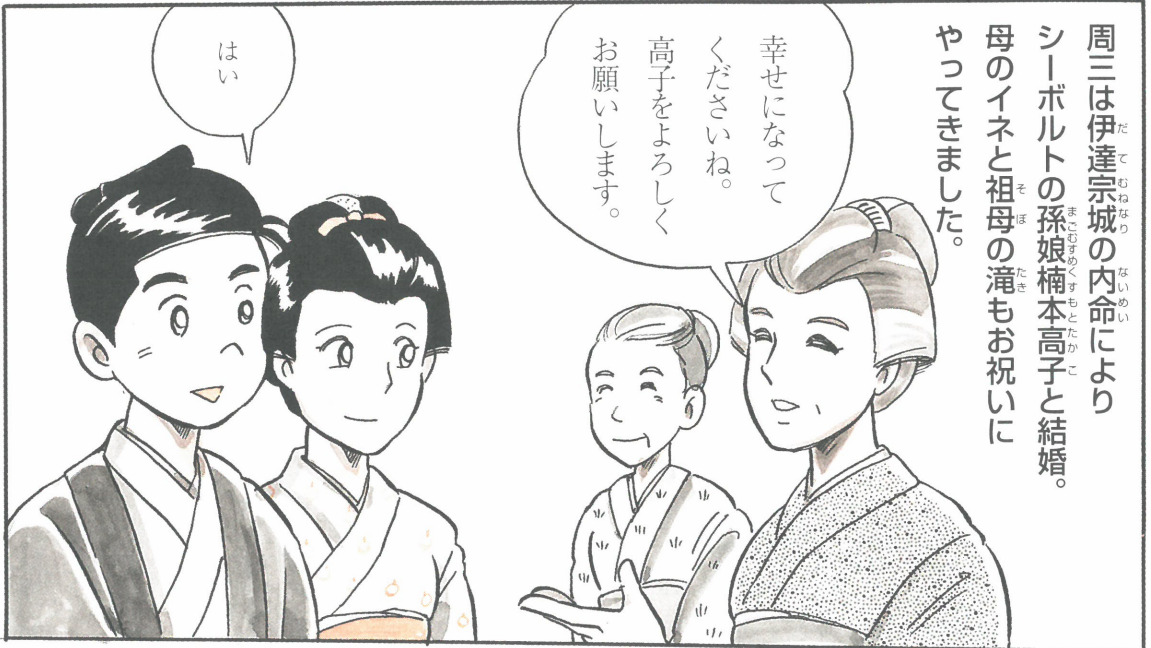
周三是伊達宗城の内命により

シーボルトの孫娘楠本高子と結婚。

母のイネと祖母の滝もお祝いにやってきました。

幸せになって
くださいね。
高子をよろしく
お願いします。

はい



あなた、あんまり勉強
ばかりせず、たまには
ゆっくり休んで
くださいませ。

そうだな。
高子といっしょに
散歩でもするか。

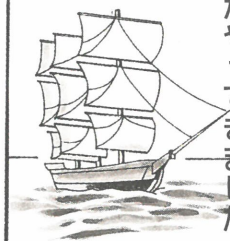
周三是結婚をしてやると心が
落ち着き、自分のやすらげる
場所ができました。

仲がいい
ふたりだね。

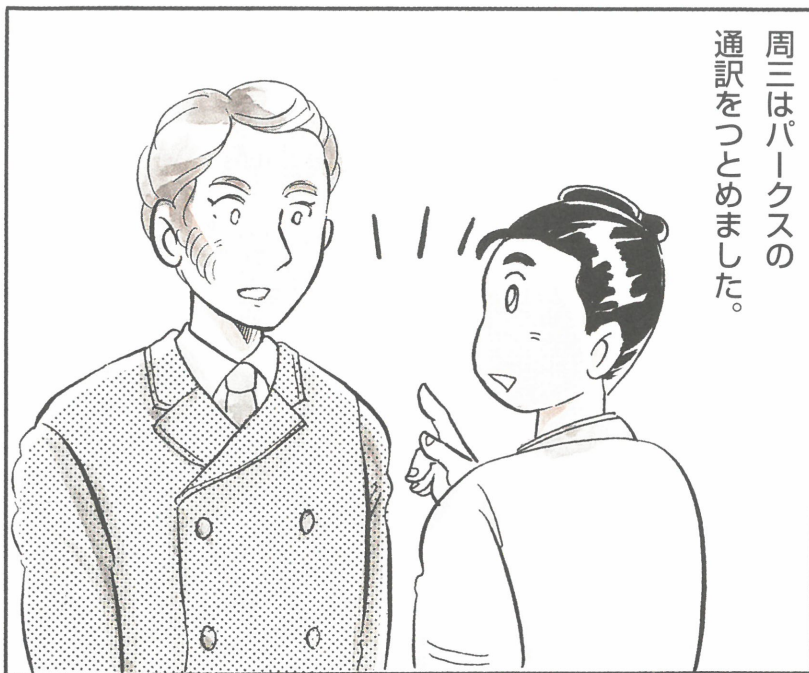
僕たちみた
いじゃない。



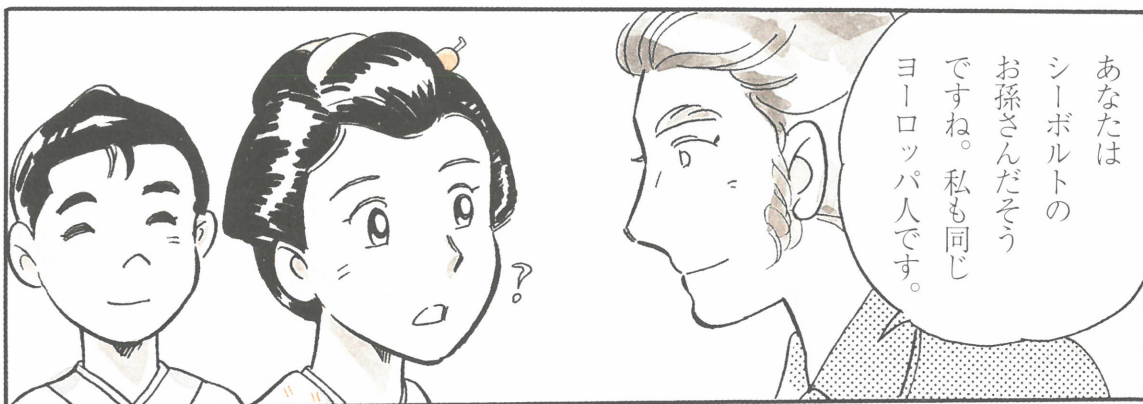
宇和島にイギリスの外交官
パークスがやってきました。



周三はパークスの
通訳をつとめました。



あなたは
シーボルトの
お孫さんだそう
ですね。私も同じ
ヨーロッパ人です。



こうやってお会い
できたのも何かのご縁
かと思いますのでこれ
を記念に受け取って
ください。



こんなに素敵すてきなも
のをよろしいのですか。
ありがとうございます。
大切に使用させて
いただきます。



まあっ

明治九年（一八七六）四月、
大阪医学校附属病院

明治三年に名前を「諸淵」と改めていた
周三は、大阪医学校附属病院の一等医
として勤めることになりました。

翌年、諸淵は
エルメレンスの
『原病各論』を
四巻まで
訳しました。

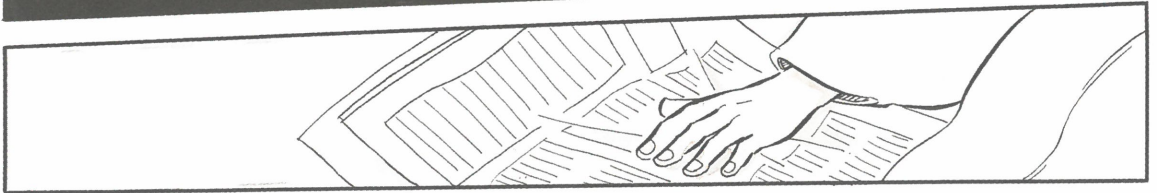
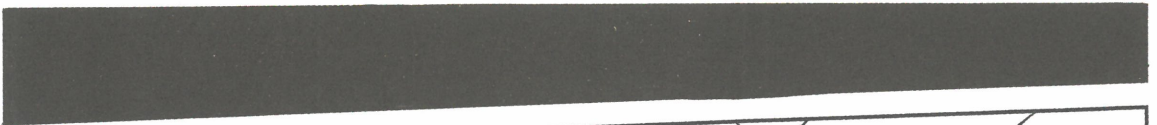
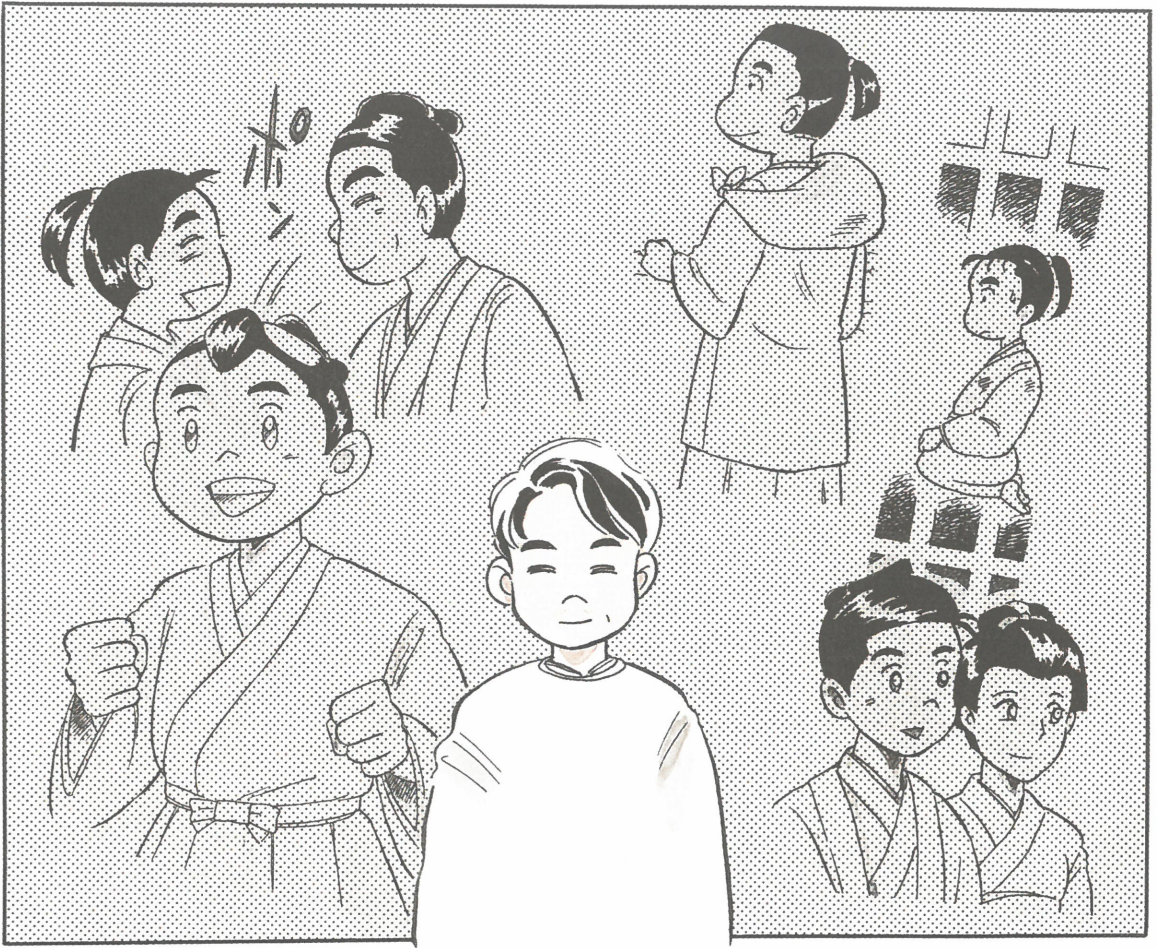
やっと念願の
本を訳す
ことができた。

医学の道に
進む人に
これを読んで
もらいたい
ものだ。

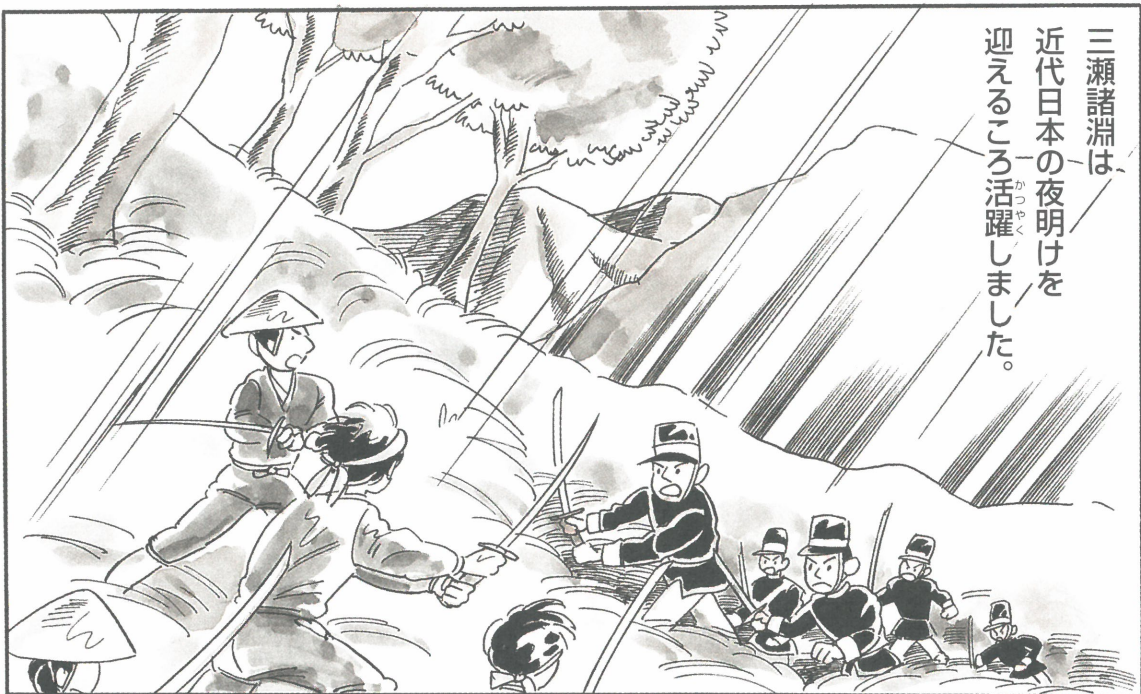
私の命は
もう長くないかも
知れない。

医者である
私には
わかる…。

しかし、ちょうどその頃諸淵は
胃腸病にかかっていた。
ウ



明治十年（一八七七）十月、
諸淵は新聞を読みながら
眠るように天国へと
旅立ちました。



三瀬諸淵は、
近代日本の夜明けを
迎えるころ活躍しました。



諸淵は亡くなった後、
大正十五年（一九二六）には功績を
たたえられ正五位が
おくられました。

昭和三年（一九二八）
には墓を大阪から
大洲の大禅寺に移し、
記念碑が
立てられました。

昭和五十六年（一九八二）

大洲電信分局開始百年記念

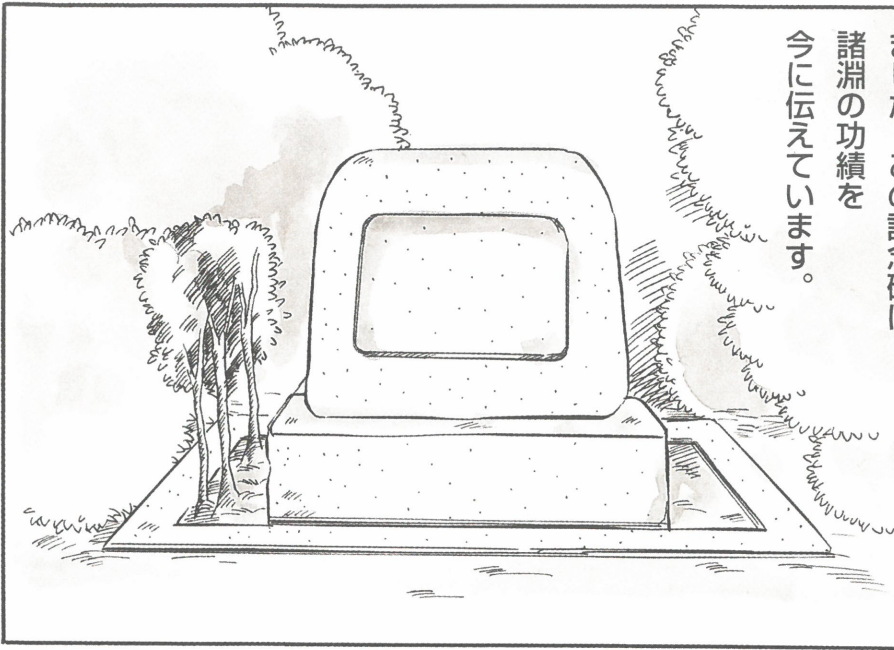
として古学堂そばに

「電信黎明の碑」が立てられ

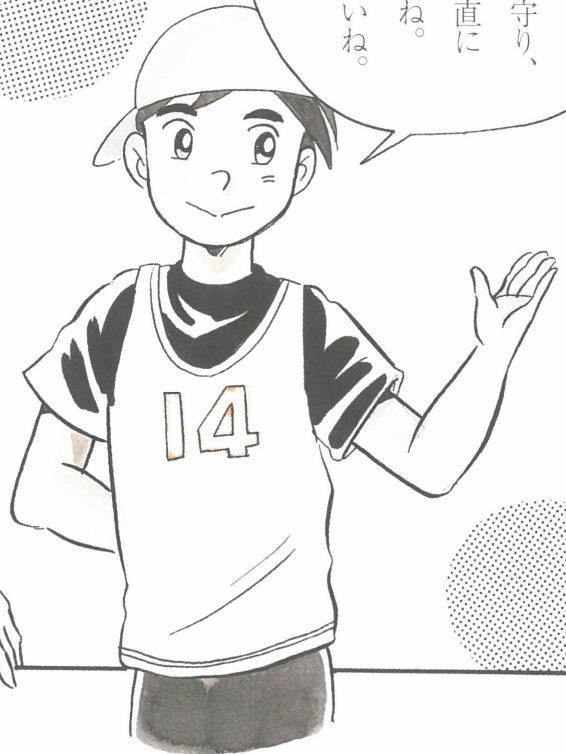
ました。この記念碑は

諸淵の功績を

今に伝えています。

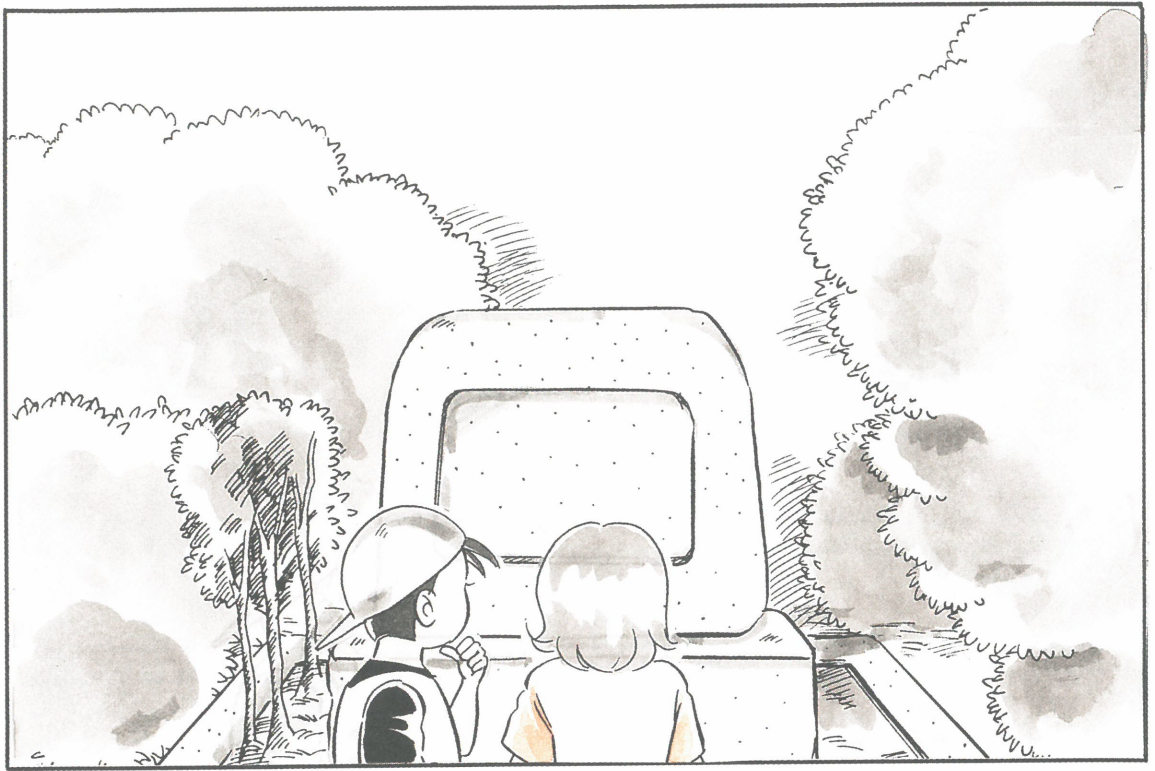


諸淵は先生の教えを守り、
こつこつと自分に素直に
生きてきた人なんだね。
ぼくたちも見習いたいね。



そうね。私たちも
未来への夢をもって
その時々を大切に
生きていかなくちゃ
いけないっていうことが
わかったわ。いい人
にお会いできたわね。





三瀬諸淵年譜

年号(西暦)

天保十年(一八三九)

安政二年(一八五五)

安政五年(一八五八)

文久元年(一八六一)

慶応元年(一八六五)

慶応二年(一八六六)

明治二年(一八六九)

明治四年(一八七一)

明治九年(一八七六)

明治十年(一八七七)

主な事から

喜多郡大洲町中町(現在の大洲市大洲)に生まれる

おじの二宮敬作に入門、オランダ語を学ぶ

大洲で電信実験を行ない、日本で初めて成功する

シーボルトの通訳をする

大洲へ帰る

楠本高子と結婚、宇和島でオランダ語と英語を教える

大阪医学校の先生になる

ろう屋のきまりの改革につとめる

大阪医学校附属病院の二等医になる、文献の翻訳をする

胃腸病でなくなる(二十九歳)

